



水産用医薬品の

# 使用基準

を守りましょう

薬を使う  
魚種

用法  
用量

使用禁止  
期間

使用基準に違反した場合、  
「3年以下の懲役若しくは300万円以下の罰金、又はこれらの併科」  
との規定により処罰の対象となります。

使用した魚は回収や廃棄の対象となり  
損害は使用者の自己負担となる場合があります。

うっかりミスによる違反を防ぐために  
使用記録や従業員同士の情報共有をしっかりと行いましょう。

# V ワクチン について



## ● 治療から予防の時代

- ・過去の魚病対策は、抗菌剤などによる治療が主体でしたが、近年、多くの水産用ワクチンが承認されて「治療から予防へ」の時代に移行しています。
- ・疾病を予防できれば、治療をする必要がなく、抗菌剤代や疾病対応にかかるコストが大幅に浮きます。
- ・ワクチンは抗菌剤等と比べて、食品中や環境中へ医薬品成分が残留するおそれが高いことからより安全な水産物の生産に役立つというメリットもあります。



### 水産用ワクチンの使用状況・使用結果の調査への協力をお願い

指導機関が水産用ワクチンの使用状況及び使用結果の調査を実施します。ワクチンの有効性などを評価する上で貴重な資料となりますので、ご協力をお願いします。※本調査結果はワクチンの品質、有効性及び安全性を定期的に評価するためのみに使用します。

## ● ワクチンの効果を最大限に引き出すために

- ・ワクチンは、投与する水産動物が健康でなければ十分な免疫ができないためワクチンを適正に使うことだけでなく、適切な飼育・衛生管理も重要です。
- ・ワクチン投与から動物の体内に免疫ができるまでには、数日から1週間程度かかりますので疾病の発生時期を考慮し、前もって投与してください。  
(疾病が発生してから水産用ワクチンを投与しても十分な予防効果は得られません。)



## チェック ワクチンは「高い」のか？

- ・ワクチンの価格は1尾当たり数円～数十円と魚の種類や売値などによっては割高に感じます。
- ・しかしワクチンを接種して死亡や病気を防ぐことにより生産性や品質の向上や治療コストを低減することができるほか、抗菌剤の使用量が減ることで食品安全上のリスクや環境負荷の低減にも貢献できるなど間接的なメリットもあります。なにより疾病が減ることで飼育者の精神的ストレスが軽減されます。
- ・次ページにワクチンを接種するメリットをまとめましたのでデメリットと合わせてご検討ください。

フロー図でわかる



# ワクチンのメリット

ワクチンを接種する



死亡・病気が減る

(接種時に)  
正確な飼育尾数がわかる

チェック

健康が  
保たれる

※ 損耗率の低減・生産性の向上

重要!  
飼育者の  
精神的  
ストレス軽減

正確な  
薬投与量  
がわかる

正確な  
生産量  
がわかる

魚の  
品質向上

出荷量  
の見通しを  
立てやすい

池入れ  
稚魚数を  
節減可能

ポイント  
抗菌剤を使う機会が減る

生産計画  
の正確性  
が上昇

飼育密度  
が低減

※ 抗菌剤代  
を節減

薬剤耐性  
リスク低減

残留  
リスク低減

環境負荷  
低減

Fantastic!

高品質の魚を  
安定して出荷できる

飼育環境  
が向上

治療効果  
が向上

重要!  
食品安全上の  
リスク低減



Good job!

販売先からの  
信頼性がアップ

更なる病気の低減

消費者・販売先からの  
信頼性がアップ  
魚の付加価値がアップ



# VI 抗菌剤と薬剤耐性菌 について



## 1. そもそものはなし

### ● 薬剤耐性菌って何？

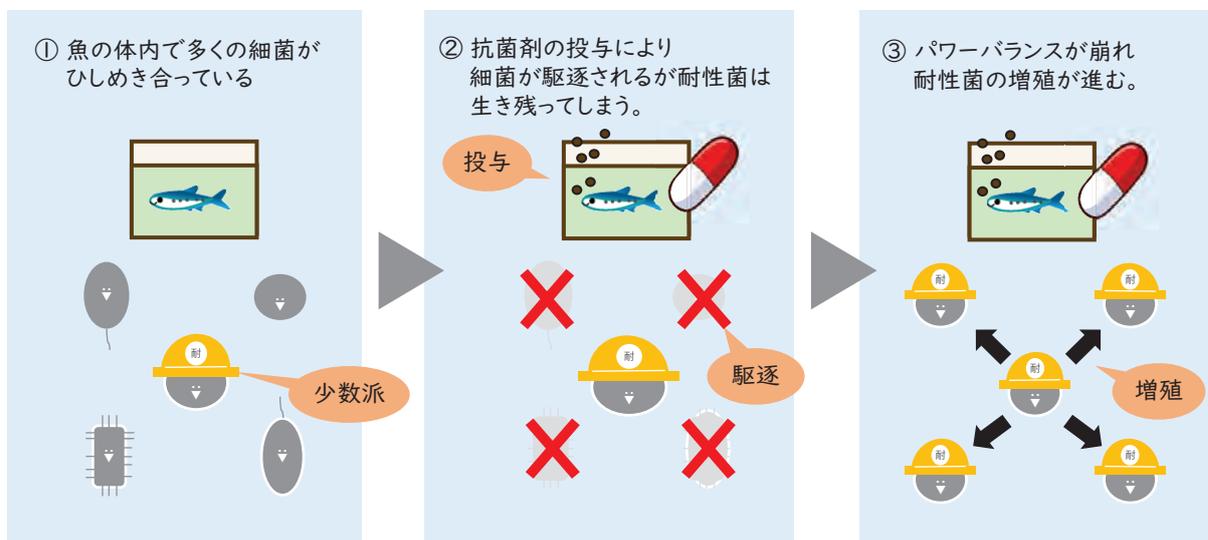
- ・抗菌剤は、すべての細菌にどの抗菌剤も効くということではなく、細菌の種類によって効くもの・効かないものがあり、細菌のカラダの構造上、効かない抗菌剤はどう工夫して使っても効きません。
- ・それとは別に、ある抗菌剤について、用法・用量どおりに使えば本来は効果があるはずなのに効かなくなってしまう細菌を「薬剤耐性菌」といいます。
- ・疾病の原因菌が薬剤耐性を持ってしまうと、抗菌剤が効かず、疾病が治りにくくなることがあります。

### ● 耐性菌はどこで生まれるの？

- ・細菌は、抗菌剤に抵抗する能力を突然変異で手に入れたり他の細菌から譲り受けたりします。
- ・よその水域からやってくることもあります。つまり、抗菌剤を使っていなくても養殖場に居ることもあるため、養殖場に居ることを前提に、その「増殖」を抑えることが重要となります。

### ● 耐性菌は自然に増えない。人間が増やすのです。

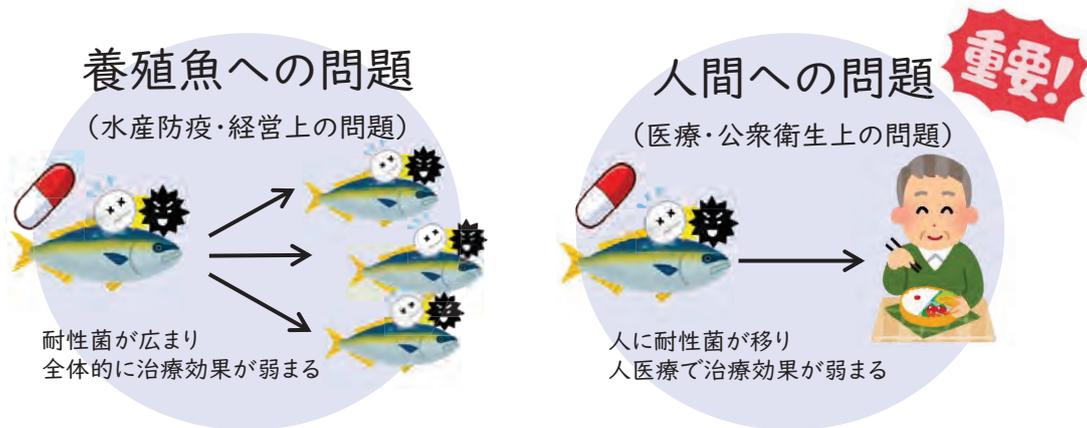
- ① 魚の体内には、疾病を起こさない細菌も含め、非常に多様な細菌が存在し、ひしめき合っています。細菌達は、お互いにパワーバランスを保ち、とくに疾病を起こすことなく一つの社会を形成しています。耐性菌は、他の細菌よりも弱いため、社会の中で少数派として細々と生きています。
- ② あるとき、そこにある抗菌剤を投与します。すると、その抗菌剤に耐性化した細菌は生き残りそうでない細菌は駆逐されます。耐性菌にとってはライバルが少なくなりパワーバランスが崩れます。
- ③ 駆逐された細菌も、また増えようとしませんが、そこに抗菌剤が追加されると、また耐性菌が優位になります。こうして、耐性菌が増えていきます。(低濃度・長期間で投与するととくに増えやすくなります)



## 2. 耐性菌がでると何が問題になるの？

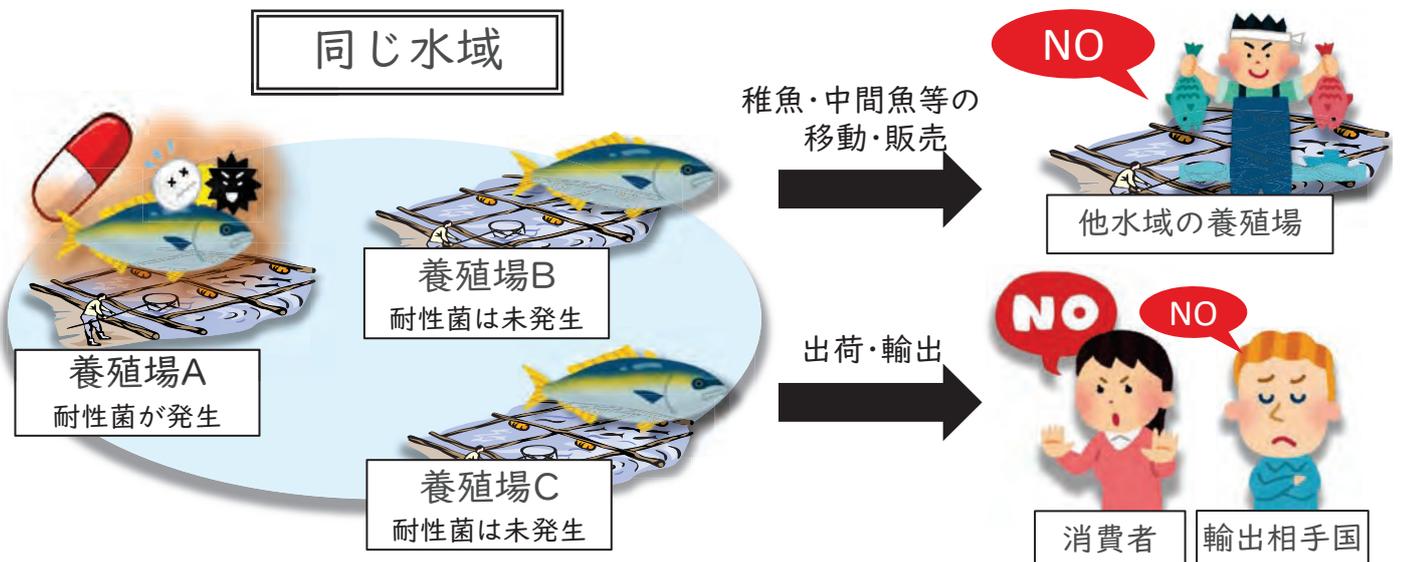
### ● 耐性菌が問題となる2つのパターン

- ・1つは、薬剤耐性菌に感染している魚が増えて群全体で抗菌剤による治療効果が弱くなった結果、疾病が抑えられずにまん延してしまうという、**水産防疫及び経営上の問題**が生じます。
- ・もう1つは、薬剤耐性菌が魚に悪影響を与えずに出荷された場合です。例えば、薬剤耐性菌に感染した魚が出荷されて人間が触れたり、食べたりします。このとき、薬剤耐性菌Aが人間に感染し、たまたまその人間が細菌Bにより病気になっていたとします。すると、薬剤耐性菌Aの遺伝子が細菌Bに伝播して細菌Bも薬剤耐性菌になってしまい、細菌Bによる病気を抗菌剤で治そうとしても治療効果が弱くなる可能性があります。魚で発生した薬剤耐性菌は**医療上、公衆衛生上の問題**も引き起こします。



### ● 薬剤耐性菌の発生による二次的な影響

- ・薬剤耐性菌が発生すると、同じ水域の養殖場も薬剤耐性菌に汚染されているとみなされることがあり、**他水域から稚魚や中間魚の購入を拒否された事例**もあります。
- ・また、薬剤耐性は世界的にも人への影響の面から注目されており、今後、**耐性菌の発生が輸出や国内消費者への販売に悪影響を及ぼす可能性も高まっています。**



### 3. 耐性菌が出る前にチェック!



#### ● 自分の養殖場は耐性菌に侵されていないか

- ・疾病になった魚を抗菌剤でいつもどおりの用法・用量で治療したのに、効きが悪いとき病原菌が薬剤耐性化している可能性があります。
- ・薬剤耐性化しているかどうかは「薬剤感受性試験」を行う必要があります。
- ・薬剤感受性試験を行うことで、本当に耐性菌が原因で薬の効きが悪かったのか、どの抗菌剤であれば効果があるのか、などが明確になり、対策を前に進めることができます。

#### ● 薬剤感受性試験を行いたいときは

- ・薬剤感受性試験を行うには、培養器や抗菌剤等の専用の資材等が必要になり現場で行うのは難しいため、水産試験場や、試験機関で実施してもらいましょう。
- ・薬剤感受性試験は、菌の培養などに数日かかるため、日数に余裕をもって行い試験中の防疫対策についても水産試験場等と相談しておきましょう。

#### ● ほかの養殖場の耐性状況を知りたい

- ・農林水産省は、定期的に複数の養殖場からサンプルを取り、感受性試験を行うことで、日本全体での耐性状況を監視する「薬剤耐性モニタリング」を行っています。都道府県によっては、独自に管轄内においてモニタリングを実施していることもあります。
- ・これらの結果と比べることで、自身の養殖場の耐性状況を多面的に考察することができます。

#### **調**べてみよう ～農林水産省の薬剤耐性モニタリング～

- ・動物医薬品検査所の専用サイトでは、水産動物に感染したラクトコッカス・ガルビエやブリオ属菌における抗菌剤への耐性状況を見ることができます。
- ・薬剤耐性モニタリングのために毎年夏～秋に水産試験場等を通じて病原体を集めています。検体をご提供いただけますようご協力をお願いいたします。

モニタリング結果が公表されている動物医薬品検査所のホームページ



## 4. 今日からできる耐性菌対策

薬剤耐性菌は外部からやってくることもあり発生をゼロにすることは非常に困難です。感染してしまったとしても耐性菌を増やさない(減らす)取組を行うことが重要です。

### ① 疾病が発生しないのが一番

- ・当たり前のことではありますが、細菌感染症にかからなければ薬剤耐性は問題になりません。ワクチン、飼養衛生管理を徹底し、魚の健康を維持して疾病の発生を抑えましょう。

### ② 抗菌剤を揃えておく

- ・単一の抗菌剤を同一水域で使い続けることは、薬剤耐性菌の発生リスクを増加させます。また、実際に薬剤耐性菌が発生し、水産用抗菌剤の効果が減弱した場合、速やかに別の抗菌剤に切り替える必要があります。
- ・承認されている水産用抗菌剤が複数あれば、疾病発生時にどれも速やかに購入できるよう、使用指導書を入手しておきましょう。
- ・使用した薬剤名や量も対策上重要です。記録をきちんと取っておきましょう。

### ③ 専門家による診断

- ・病魚の症状などから自身で疾病を予想して治療を行い始める場合もありますが、過去の状況や他の養殖場と比べて症状や医薬品の効果に少しでも変化を感じたら、水産試験場の魚類防疫員や獣医師などの専門家に、速やかに相談して原因を特定しましょう。
- ・その上で細菌性疾病だと診断されたら薬剤感受性試験等により、効果のある抗菌剤等を確認しましょう。



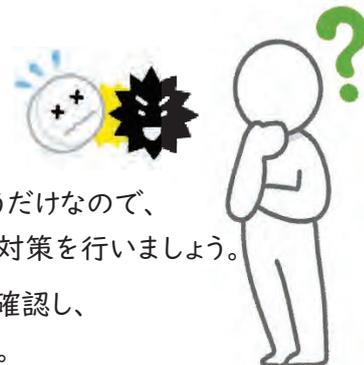
### ④ 適正使用、そして『慎重使用』へ

- ・自身の判断で用量を低くしたり自身の判断で投薬を中止するのは、原因菌の再増加を助長するだけでなく薬剤耐性菌を増加させるので、やめましょう。
- ・周辺海域でも疾病がまったく発生していないにもかかわらず、健康な魚に対して抗菌剤を予防的に投与することは止め、真に必要な時のみ抗菌剤を慎重に使用しましょう。



### ⑤ 耐性菌を疑ったらすぐに報告

- ・薬の効果が急に弱くなったら耐性菌のサインかもしれません。耐性化した原因菌に同じ抗菌剤を使い続けても、使うほど耐性菌が増えてしまうだけなので、即刻、使用を中止した上で指導機関と相談して別の抗菌剤を使うか、他の防疫対策を行いましょう。
- ・複数の抗菌剤が準備できている場合は、定期的に薬剤感受性試験で効き目を確認し、必要に応じて別の抗菌剤に切り替えて使う「サイクリング療法」を実施しましょう。



# VII 承認されている水産用医薬品

## I. 水産用ワクチン

### (1) 魚種別一覧

#### ① ぶり属魚類のワクチン

抗原	医薬品名	対象疾病	用法	用量
1種	アマリン レンサ	$\alpha$ 溶血性レンサ球菌症	経口投与	平均魚体重約100~400gの健康なぶり属魚類に魚体重1kg当たり、1日量としてワクチン0.5mLを飼料に混ぜて5日間経口投与。なお、3ヶ月以上の免疫効果を得るためには、初回投与約3ヶ月後、魚体重1kg当たり、1日量としてワクチン0.125mLを飼料に混ぜて5日間経口投与。
	ポセイドン「レンサ球菌」	$\alpha$ 溶血性レンサ球菌症	注射	ぶり属魚類(約30g~約300g)の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射。
	Mバックレンサ注	$\alpha$ 溶血性レンサ球菌症	注射	ぶり属魚類(約30g~300g)の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを注射。
	マリンジェンナーレンサI	$\alpha$ 溶血性レンサ球菌症	注射	ぶり属魚類(体重30g~300g)の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射。
2種	ピシバック注レンサ $\alpha$ 2	① I型 $\alpha$ 溶血性レンサ球菌症 ② II型 $\alpha$ 溶血性レンサ球菌症	注射	ぶり属魚類(約10g~約1kg)の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射。
	“京都微研”マリナコンビー2	① $\alpha$ 溶血性レンサ球菌症 ② J-O-3型ビブリオ病	注射	平均魚体重30g~300gのぶり属魚類の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射。
3種	ピシバック注3混	① イリドウイルス病 ② J-O-3型ビブリオ病 ③ $\alpha$ 溶血性レンサ球菌症	注射	ぶり属魚類(約10g~約860g)の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射。
4種	“京都微研”マリナー4	① $\alpha$ 溶血性レンサ球菌症 ② J-O-3型ビブリオ病 ③ 類結節症 ④ イリドウイルス病 【多糖アジュバント加】	注射	魚体重約30~300gのぶり属魚類の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射。
	ピシバック注4	① I型 $\alpha$ 溶血性レンサ球菌症 ② II型 $\alpha$ 溶血性レンサ球菌症 ③ J-O-3型ビブリオ病 ④ イリドウイルス病	注射	体重約10g~約1kgのぶり属魚類の腹腔内に連続注射器を用い0.1mLを1回注射。

## ② ぶりのワクチン



抗原	医薬品名	対象疾病	用法	用量
1種	ノルバックス イリド mono	イリドウイルス病	注射	ワクチンに希釈溶液を加えて混合し、ぶり(体重約30g～約90g)の腹腔内に連続注射器を用いて、0.1mLを1回注射。
2種	ピシバック 注 ビブリオ+レンサ	① α溶血性レンサ球菌症 ② J-O-3型ビブリオ病	注射	ぶり(約30g～約2kg)の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射。
4種	ピシバック 注 LVPR/oil	① α溶血性レンサ球菌症 ② J-O-3型ビブリオ病 ③ 類結節症 ④ イリドウイルス病 【油性アジュバント加】	注射	体重約20g～約1kgのぶりの腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射。
5種	ピシバック 注 5 oil	① I型α溶血性レンサ球菌症 ② II型α溶血性レンサ球菌症 ③ J-O-3型ビブリオ病 ④ 類結節症 ⑤ イリドウイルス病 【油性アジュバント加】	注射	体重約20g～約1kgのぶりの腹腔内に連続注射器を用い0.1mLを1回注射。

## ③ ぶり及びかんぱちのワクチン



抗原	医薬品名	対象疾病	用法	用量
2種	ノルバックス類結 /レンサOil	① α溶血性レンサ球菌症 ② 類結節症 【油性アジュバント加】	注射	ぶり(約30g～約110g)及びかんぱち(約20g～約210g)の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射。
3種	マリンジェンナー イリドビブレン 3混	① イリドウイルス病 ② J-O-3型ビブリオ病 ③ α溶血性レンサ球菌症	注射	ぶり又はかんぱち(約10g～約100g)の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射。
	ノルバックス PLV3 種Oil	① 類結節症 ② α溶血性レンサ球菌症 ③ J-O-3型ビブリオ病 【油性アジュバント加】	注射	ぶり(約30g～約100g)及びかんぱち(約30g～約200g)の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射。

## ④ かんぱちのワクチン



抗原	医薬品名	対象疾病	用法	用量
2種	マリンジェンナー ビブレン	① α溶血性レンサ球菌症 ② J-O-3型ビブリオ病	注射	平均魚体重約30g～約300gのかんぱちの腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射。
3種	ピシバック 注 LVS	① α溶血性レンサ球菌症 ② J-O-3型ビブリオ病 ③ ストレプトコッカス・ジスガラクチエ感染症	注射	かんぱち(α溶血性レンサ球菌症では約20g～約160g、J-O-3型ビブリオ病及びストレプトコッカス・ジスガラクチエ感染症では約20g～約1.3kg)の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射。

※本項目で「II型」と記していないα溶血性レンサ球菌症はすべてI型のα溶血性レンサ球菌症を指します。

⑤ まだいのワクチン 

抗原	医薬品名	対象疾病	用法	用量
1種	マリンジェンナーイリド	イリドウイルス病	注射	まだい(約5g~約100g)の筋肉内に連続注射器を用い、0.1mLを1回注射。
2種	ピシバック 注イニエ+イリド	① β溶血性レンサ球菌症 ② イリドウイルス病	注射	まだい(体重約5~約50g)の腹腔内又は筋肉内に連続注射器を用い、0.1mLを注射。

⑥ まはた及びくえのワクチン 

抗原	医薬品名	対象疾病	用法	用量
1種	オーシャンテクト VNN	ウイルス性神経壊死症(血清型C型)	注射	まはた(約8g~約128g)の腹腔内に、1尾あたり0.1mLを1回注射。
			注射	くえ(約7g~約180g)の腹腔内に、1尾あたり0.1mLを1回注射。

⑦ ひらめのワクチン 

抗原	医薬品名	対象疾病	用法	用量
1種	Mバックイニエ	β溶血性レンサ球菌症	注射	ひらめ(体重約30~300g)の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを注射。
	マリンジェンナーヒラレンI	β溶血性レンサ球菌症	注射	ひらめ(体重約30~300g)の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを注射。
3種	松研MバックIPレンサ	① β溶血性レンサ球菌症 ② ストレプトコッカス・パラウベリス(I型)感染症 ③ ストレプトコッカス・パラウベリス(II型)感染症	注射	ひらめ(体重約30~約300g)の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを注射。

⑧ かわはぎのワクチン 

抗原	医薬品名	対象疾病	用法	用量
1種	Mバックイニエ	β溶血性レンサ球菌症	注射	かわはぎ(体重約5g~100g)の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを注射。
2種	マリンジェンナーカワハギαβ	① α溶血性レンサ球菌症 ② β溶血性レンサ球菌症	注射	かわはぎ(体重約10g~約160g)の腹腔内に連続注射器を用い、0.1mLを注射。

⑨ さけ科魚類のワクチン 

抗原	医薬品名	対象疾病	用法	用量
2種	ピシバックビブリオ	① J-O-1型ビブリオ病 ② J-O-3型ビブリオ病	浸漬	本品を10倍希釈し、1,000mL当たり総体重500g以下の魚を2分間浸漬。使用ワクチン液は10回まで反復して使用可能。

⑩ あゆのワクチン 

抗原	医薬品名	対象疾病	用法	用量
1種	アユ・ビブリオ病不活化ワクチン“日生研”	ビブリオ病	浸漬	本品10倍希釈時は1,000mL当たり総体重500g以下のあゆを2分間浸漬し、100倍希釈時は1,000mL当たり総体重200g以下のあゆを10分間浸漬。10倍希釈使用ワクチン液は10回まで反復して使用可能。
	ピシバックVA アユ	ビブリオ病	浸漬	本品10倍希釈時は1,000mL当たり総体重500g以下のあゆを2分間浸漬し、100倍希釈時は1,000mL当たり総体重200g以下のあゆを10分間浸漬。10倍希釈使用ワクチン液は10回まで反復して使用可能。

## (2) 魚種別・疾病別一覽

魚種	製剤名	製造販売業者 (メーカー)	投与方法	アジュバント	ピブリオ病	(I型) αレンサ 球菌症	イリド ウイルス 病	類結 節症	II型α レンサ 球菌症	β レンサ 球菌症	S・ パラウ ペリス	S・ ジスガラ クチエ	VNN
ぶり属	アマリンレンサ	日生研(株)	経口			○							
	ポセイドン「レンサ球菌」	(株)科学飼料研究所	注射			○							
	Mバックレンサ注	松研薬品工業(株)	注射			○							
	マリンジエンナーレンサ1	バイオ科学(株)	注射			○							
	"京都微研"マリナコンビー2	(株)微生物化学研究所	注射		○	○							
	ピシバック注レンサα2	共立製薬(株)	注射		○	○	○						
	ピシバック注3混	共立製薬(株)	注射		○	○	○						
	"京都微研"マリナー4	(株)微生物化学研究所	注射	有	○	○	○	○					
	ピシバック注4	共立製薬(株)	注射		○	○	○						
	ノルバックスイリドmono	MSDアニマルヘルス(株)	注射				○						
ぶり	ピシバック注ピブリオ+レンサ	共立製薬(株)	注射		○								
	ピシバック注LVPR/oil	共立製薬(株)	注射	有	○	○	○	○					
	ピシバック注5oil	共立製薬(株)	注射	有	○	○	○	○					
	ノルバックス類結/レンサOil	MSDアニマルヘルス(株)	注射	有		○	○	○					
かんぱち	マリンジエンナーイリドピブレン3混	バイオ科学(株)	注射		○	○	○	○					
	ノルバックス PLV3種Oil	MSDアニマルヘルス(株)	注射	有	○	○	○	○					
	マリンジエンナーピブレン	バイオ科学(株)	注射		○	○							
まだい	ピシバック注 LVS	共立製薬(株)	注射		○	○					○		
	マリンジエンナーイリド	バイオ科学(株)	注射			○	○						
まはた・くえ	ピシバック注イニエ+イリド	共立製薬(株)	注射				○			○			
	オーシャンテクトVNN	日生研(株)	注射										○
ひらめ	マリンジエンナーヒラレン1	バイオ科学(株)	注射							○			
	松研MバックIPレンサ	松研薬品工業(株)	注射							○	○		
かわはぎ	Mバックイニエ	松研薬品工業(株)	注射							○			
	マリンジエンナーカワハギαβ	バイオ科学(株)	注射			○				○			
さけ科	ピシバックピブリオ	共立製薬(株)	浸漬		○								
	ピシバックVAアユ	共立製薬(株)	浸漬		○								
あゆ	7ユ・ピブリオ不活化7クワン"日生研"	日生研(株)	浸漬		○								

## 2. 水産用抗菌剤及びその他一般薬（駆虫剤、麻酔剤、消毒剤など）

表1 製剤別の一覧

(令和6年1月31日現在)

分類	成分名	製剤名	製造販売業者（メーカー）		
抗菌剤	アンピシリン (ABPC)	水産用アンピシリン5倍散「あすか」	あすかアニマルヘルス株式会社		
		水産用アンピシリン10倍散「あすか」	あすかアニマルヘルス株式会社		
		水産用アンピシリン10%散「KS」	共立製薬株式会社		
		水産用アンピシリン20%散「KS」	共立製薬株式会社		
		水産用アンピシリン散「コーキン」	コーキン化学株式会社		
		水産用アンピシリン散「コーキン」100	コーキン化学株式会社		
		水産用アンピシリン散「コーキン」200	コーキン化学株式会社		
		水産用アンピシリン散「TG」5%	株式会社トーヨー技術研究所		
		水産用アンピシリン散「TG」10%	株式会社トーヨー技術研究所		
		水産用アンピシリン散「TG」20%	株式会社トーヨー技術研究所		
		水産用アンピシリン10%「バイオ」	バイオ科学株式会社		
		水産用アンピシリン20%「バイオ」	バイオ科学株式会社		
		水産用アンピシリン100「リケン」	リケンベッツファーマ株式会社		
		水産用アンピシリン200「リケン」	リケンベッツファーマ株式会社		
塩酸オキシテトラサイクリン (OTC)	塩酸オキシテトラサイクリン (OTC)	水産用OTC20%「あすか」	あすかアニマルヘルス株式会社		
		水産用OTC20%「あすか」NC	あすかアニマルヘルス株式会社		
		水産用OTC散10%「KS」	共立製薬株式会社		
		水産用OTC散20%「KS」	共立製薬株式会社		
		水産用OTC散50%「KS」	共立製薬株式会社		
		水産用OTC散「コーキン」	コーキン化学株式会社		
		水産用OTC散「コーキン」200	コーキン化学株式会社		
		水産用OTC散200W	コーキン化学株式会社		
		水産用OTC散「TG」10%	株式会社トーヨー技術研究所		
		水産用OTC散「TG」20%	株式会社トーヨー技術研究所		
		水産用OTC散「TG」40%	株式会社トーヨー技術研究所		
		水産用OTC20%「バイオ」NC	バイオ科学株式会社		
		アルキルトリメチル アンモニウムカルシウム オキシテトラサイクリン (QTC)	アルキルトリメチル アンモニウムカルシウム オキシテトラサイクリン (QTC)	水産用QTC10%散「KS」	共立製薬株式会社
				水産用QTC20%散「KS」	共立製薬株式会社
水産用QTC-Q散「TG」10%	株式会社トーヨー技術研究所				
水産用QTC-Q散「TG」20%	株式会社トーヨー技術研究所				
水産用QTC20%「バイオ」	バイオ科学株式会社				
塩酸ドキシサイクリン (DOX)	塩酸ドキシサイクリン (DOX)	水産用ドキシサイクリン5%「バイオ」	バイオ科学株式会社		
		水産用ドキシサイクリン20%「バイオ」	バイオ科学株式会社		
エリスロマイシン (EM)	エリスロマイシン (EM)	水産用エリスロマイシン5倍散「あすか」	あすかアニマルヘルス株式会社		
		水産用エリスロマイシン20%散「KS」	共立製薬株式会社		
		水産用エリスロマイシン散「コーキン」	コーキン化学株式会社		
		水産用エリスロマイシン散「コーキン」200	コーキン化学株式会社		
		水産用エリスロマイシン散100W	コーキン化学株式会社		
		水産用エリスロマイシン散200W	コーキン化学株式会社		
		エリスロ・100	株式会社東理		
		水産用エリスロマイシン散「TG」	株式会社トーヨー技術研究所		
		水産用エリスロマイシン散「TG」20%	株式会社トーヨー技術研究所		
		水産用エリスロマイシン散「TG」40%	株式会社トーヨー技術研究所		
		水産用エリスロマイシン散「TG」白10%	株式会社トーヨー技術研究所		
		水産用エリスロマイシン散「TG」白20%	株式会社トーヨー技術研究所		
		水産用エリスロマイシン散「黒」20%	株式会社トーヨー技術研究所		
		水産用エリスロマイシン散「黒」40%	株式会社トーヨー技術研究所		
		水産用エリスロマイシン20%「バイオ」	バイオ科学株式会社		
		水産用エリスロ100「リケン」	リケンベッツファーマ株式会社		
		水産用エリスロ200「リケン」	リケンベッツファーマ株式会社		
塩酸リンコマイシン (LCM)	塩酸リンコマイシン (LCM)	水産用リンコマイシン5倍散「あすか」	あすかアニマルヘルス株式会社		
		水産用リンコマイシン10%散「KS」	共立製薬株式会社		
		水産用リンコマイシン20%散「KS」	共立製薬株式会社		
		水産用リンコマイシン散「コーキン」	コーキン化学株式会社		
		水産用リンコマイシン散「コーキン」200	コーキン化学株式会社		
		水産用リンコマイシン散「TG」10%	株式会社トーヨー技術研究所		
		水産用リンコマイシン散「TG」20%	株式会社トーヨー技術研究所		
		水産用リンコマイシン20%「バイオ」	バイオ科学株式会社		
		水産用リンコマイシン200「リケン」	リケンベッツファーマ株式会社		
ホスホマイシン (FOM)	ホスホマイシン (FOM)	水産用ホスミシン10%	株式会社科学飼料研究所		
オキソリン酸 (OA)	オキソリン酸 (OA)	水産用オキソリン酸10%散「KS」	共立製薬株式会社		
		水産用オキソリン酸20%散「KS」	共立製薬株式会社		
		水産用オキソリッチ散	コーキン化学株式会社		

分類	成分名	製剤名	製造販売業者(メーカー)
抗菌剤 (続き)	オキシリン酸 (OA) (続き)	水産用パラザンD	物産アニマルヘルス株式会社
		水産用パラザン油剤	物産アニマルヘルス株式会社
		水産用パラザン10%	松村薬品工業株式会社
		水産用オキシリン酸懸濁液50「リケン」	リケンベッツファーマ株式会社
		水産用オキシリン酸懸濁液200「リケン」	リケンベッツファーマ株式会社
	スルファモノメトキシ 又はそのナトリウム塩 (SMMX)	水産用スルファモノメトキシソーダ純末「KS」	共立製薬株式会社
		水産用ダイメトン散	明治アニマルヘルス株式会社
		水産用ダイメトンソーダ	明治アニマルヘルス株式会社
	スルファモノメトキシ及び オルメトプリムの合剤	水産用エクテシン	明治アニマルヘルス株式会社
	スルフィンゾールナトリウム (SIZ)	イスランソーダ	MSDアニマルヘルス株式会社
	チアンフェニコール (TP)	水産用チアンフェニコール20%散「KS」	共立製薬株式会社
		水産用チオファーム100	コーキン化学株式会社
		水産用チオファーム200	コーキン化学株式会社
		水産用チアンフェニコール散「TG」10%	株式会社トーヨー技術研究所
		水産用チアンフェニコール散「TG」20%	株式会社トーヨー技術研究所
		水産用チアンフェニコール散「TG」40%	株式会社トーヨー技術研究所
		水産用チアンフェニコール20%「バイオ」	バイオ科学株式会社
		水産用チアンフェニコール200「リケン」	リケンベッツファーマ株式会社
	フロルフェニコール (FF)	アクアフェン	MSDアニマルヘルス株式会社
		アクアフェンL	MSDアニマルヘルス株式会社
		水産用フロルフェニコール2%液「KS」	共立製薬株式会社
		水産用フロルフェニコール散「コーキン」	コーキン化学株式会社
		水産用バシックスFf25「リケン」	リケンベッツファーマ株式会社
		水産用バシックスFf40	NEW リケンベッツファーマ株式会社
		水産用フロルフェニコール25「リケン」	リケンベッツファーマ株式会社
	水産用フロルフェニコール40「リケン」	NEW リケンベッツファーマ株式会社	
	駆虫剤	トリクロロン	水産用マゾテン
水産用トリクロロンガード			NEW リケンベッツファーマ株式会社
プラジクアンテル		水産用ベネサル	あすかアニマルヘルス株式会社
		ハダクグリーン	エランコジャパン株式会社
		水産用プラジガード・フレーバー	リケンベッツファーマ株式会社
		水産用プラジクアンテル	リケンベッツファーマ株式会社
塩化リゾチーム		水産用ポトチーム	あすかアニマルヘルス株式会社
過酸化水素		マリンサワーSP	株式会社片山化学工業研究所
		マリンサワーSP30	株式会社片山化学工業研究所
		マリンサワーSP45	株式会社片山化学工業研究所
		ムシオチール	共立製薬株式会社
サカナガード		保土谷化学工業株式会社	
フェバンテル		マリンバンテル	明治アニマルヘルス株式会社
ピルビン酸メチル	マリンディップ	共立製薬株式会社	
アルペンダゾール	スポチール200	共立製薬株式会社	
麻酔剤	オイゲノール	FA100	物産アニマルヘルス株式会社
消毒剤	ポピドンヨード	水産用ポピドンヨード10%「KS」	共立製薬株式会社
		水産用イソジン液10%	ムンディファーマ株式会社
	プロノポール	パイセス パイセスA	エランコジャパン株式会社 CZ Vaccines S.A.U.
肝臓疾患 用剤	ウルソデオキシコール酸	ウルソデオキシコール酸「科飼研」5%	株式会社科学飼料研究所
		水産用ウルソデオキシコール酸5%「KS」	共立製薬株式会社
		水産用ウルソデオキシコール酸10%「KS」	共立製薬株式会社
		ウルソー5%	物産アニマルヘルス株式会社
		ウルソー10%	物産アニマルヘルス株式会社
		ウルソーコール酸5%<BIO>	NEW バイオ科学株式会社
		ウルソーコール酸10%<BIO>	NEW バイオ科学株式会社
		水産用ウルソーコール酸5%<BIO>	バイオ科学株式会社
		水産用ウルソーコール酸10%<BIO>	バイオ科学株式会社
		グルタチオン	水産用アトモレート散
	水産用アトモレート散S		あすかアニマルヘルス株式会社
	水産用グルタチオン2%散「KS」		共立製薬株式会社
	水産用グルタチオン4%散「KS」		共立製薬株式会社
水産用グルタチオン10%散「KS」	共立製薬株式会社		
水産用グルタチオン20%散「KS」	共立製薬株式会社		
ビタミン	ビタミンE	メイロング	株式会社科学飼料研究所
	ビタミンA,D,E	プロキストADE	株式会社養日化学研究所
	ビタミンA,D,E	ロビソールAD3Eオーラル,タイプ50	日本全薬工業株式会社
	ビタミンA,C,D,E	ロビソールAD3ECオーラル	日本全薬工業株式会社
	ビタミンB群	パンカルG散	明治アニマルヘルス株式会社
体外診断用医薬品		NNV検出キット「科飼研」	株式会社科学飼料研究所

# 表2 魚種別の一覧

## 1. すずき目魚類に使用できる水産用医薬品

ぶり、まだい、まあじ、かんぱち、すずき、しまあじ、ひらまさ、くろまぐろ、ぶりひら、ひらあじ、くろだい、ちだい、へだい、いしがきだい、ふえふきだい、こしょうだい、にぎだい、すぎ、おおにべ、にべ、きじはた、くえ、あら、いさき、まさば、ごまさば、めじな、ティラピア、など

効能効果		医薬品		用法・用量			使用禁止期間	使用基準
対象魚種	対象疾病	区分	有効成分	投与方法	用量	投与期間		
すずき目魚類	ビブリオ病	抗菌剤	チアンフェニコール	経口	50 mg/kg・日	5~7日間	15日間	●
			スルファモノメトキシ 又はそのナトリウム塩	経口	200 mg/kg・日	-	15日間	●
			塩酸オキシテトラサイクリン	経口	50 mg (力価)/kg・日	-	30日間	●
			アルキルトリメチルアンモニウム カルシウムオキシテトラサイクリン	経口	50 mg (力価)/kg・日	-	20日間	●
	類結節症	抗菌剤	オキシリン酸	経口	30 mg/kg・日	★	16日間	●
			オキシリン酸(懸濁水性剤)	経口	20 mg/kg・日	-	16日間	●
			チアンフェニコール	経口	50 mg/kg・日	5~7日間	15日間	●
			フロルフェニコール	経口	10 mg/kg・日	5日間	5日間	●
			ホスホマイシンカルシウム	経口	40 mg (力価)/kg・日	6日間	15日間	●
			アンピシリン	経口	20 mg (力価)/kg・日	★	5日間	●
	エドワジエラ症	抗菌剤	ホスホマイシンカルシウム	経口	40 mg (力価)/kg・日	6日間	15日間	●
	連鎖球菌症	抗菌剤	フロルフェニコール	経口	10 mg/kg・日	5日間	5日間	●
			塩酸リンコマイシン	経口	40 mg (力価)/kg・日	★	10日間	●
			アルキルトリメチルアンモニウム カルシウムオキシテトラサイクリン	経口	50 mg (力価)/kg・日	-	20日間	●
			塩酸ドキシサイクリン	経口	50 mg (力価)/kg・日	3~7日間	20日間	●
			エリスロマイシン	経口	50 mg (力価)/kg・日	5日間	30日間	●
ノカルジア症	抗菌剤	スルファモノメトキシ 又はそのナトリウム塩	経口	50 mg/kg・日	-	15日間	●	
べこ病	駆虫剤	アルベンダゾール	経口	40 mg/kg・日	5日間	14日間	●	
ぶり属	えらむし症 (ヘテラキシネ・ヘテロセルカ、 ゼウクサプタ・ジャポニカ)	駆虫剤	フェバンテル	経口	10 mg/kg・日	5日間	13日間	●
ぶりのみ	ビブリオ病 類結節症	抗菌剤	スルフィンゾールナトリウム	経口	200 mg/kg・日	-	10日間	●
	ノカルジア症	抗菌剤	スルフィンゾールナトリウム	経口	50 mg/kg・日	-	10日間	●
すずき目魚類	はだむし症 (ベネデニア・セリオレ)	駆虫剤	プラジクアンテル	経口	150 mg/kg・日	3日間	10日間	●
			過酸化水素	薬浴	(製品により異なりますので製薬メーカーHPなどでご確認ください)	-	-	
	はだむし症 (ネオベネデニア・ジレレ)	駆虫剤	過酸化水素	薬浴	現場海水 1m <sup>3</sup> 当たり 163~217g 30分間	-	-	
	えらむし症 (ビバギナ・タイ)	駆虫剤	過酸化水素	薬浴	(製品により異なりますので製薬メーカーHPなどでご確認ください)	-	-	
	住血吸虫症 (カルジコラ・オピストルキス)	駆虫剤	プラジクアンテル	経口	15 mg/kg・日	3日間	10日間	●
餌料性肝臓障害	その他	グルタチオン	経口	20 mg/kg・日	-	-		
まだいのみ	白点病	駆虫剤	塩化リゾチム	経口	20 mg(力価)/kg・日	7日間	休業期間: 3日間	

★印:製品により投与期間が異なるものです。製薬メーカーHPなどで御確認ください。  
●印:使用基準が設定されている魚種及び有効成分です。

## 2. にしん目魚類に使用できる水産用医薬品

ぎんざけ、にじます、やまめ、あまご、いわな、さくらます、さつきます、あゆ、わかさぎなど

※現在の分類学ではさけ目やきゅうりうお目等に分類される魚種もありますが、水産用医薬品の分類については平成3年に設定した方法を採用しています。



効能効果		医薬品		用法・用量			使用禁止期間	使用基準
対象魚種	対象疾病	区分	有効成分	投与方法	用量	投与期間		
にしん目魚類 (海水中で養殖されているもの)	ビブリオ病	抗菌剤	オキシリン酸	経口	20 mg/kg・日	3~5日間	21日間	●
			塩酸オキシテトラサイクリン	経口	50 mg (力価)/kg・日	-	30日間	●
にしん目魚類 (淡水中で養殖されているもの、あゆを除く)	せつそう病	抗菌剤	オキシリン酸	経口	10 mg/kg・日	5~7日間	21日間	●
			フルルフェニコール	経口	10 mg/kg・日	5日間	14日間	●
にしん目魚類 (淡水中で養殖されているもの、あゆを除く)	ビブリオ病	抗菌剤	オキシリン酸	経口	20 mg/kg・日	3~5日間	21日間	●
			フルルフェニコール	経口	10 mg/kg・日	5日間	14日間	●
			スルファモノメトキシシン 又はそのナトリウム塩	経口	150 mg/kg・日	-	30日間	●
			スルファモノメトキシシンナトリウム	薬浴	1%食塩水1t当たり10kg 10分間	-	15日間	●
			塩酸オキシテトラサイクリン	経口	50 mg (力価)/kg・日	-	30日間	●
	せつそう病	抗菌剤	オキシリン酸	経口	10 mg/kg・日	5~7日間	21日間	●
			フルルフェニコール	経口	10 mg/kg・日	5日間	14日間	●
			スルファモノメトキシシン 又はそのナトリウム塩	経口	150 mg/kg・日	-	30日間	●
			スルファモノメトキシシンナトリウム	薬浴	1%食塩水1t当たり10kg 10分間	-	15日間	●
			塩酸オキシテトラサイクリン	経口	50 mg (力価)/kg・日	-	30日間	●
冷水病	抗菌剤	フルルフェニコール	経口	10 mg/kg・日	5日間	14日間	●	
連鎖球菌症	抗菌剤	塩酸オキシテトラサイクリン	経口	50 mg (力価)/kg・日	-	30日間	●	
にじますのみ	ビブリオ病 冷水病	抗菌剤	スルフィンゾールナトリウム	経口	200 mg/kg・日	-	15日間	●
さけ科魚類のみ	魚卵消毒	消毒剤	ポビドンヨード	薬浴	50 mL/10L 15分間	-	-	
あゆのみ	ビブリオ病	抗菌剤	オキシリン酸	経口	20 mg/kg・日	★	14日間	●
			オキシリン酸	薬浴	水1t当たり10g・5時間	-	14日間	●
			フルルフェニコール	経口	10 mg/kg・日	5日間	14日間	●
			スルファモノメトキシシン 又はそのナトリウム塩	経口	100 mg/kg・日	-	15日間	●
			スルファモノメトキシシン 及びオルメトプリム配合剤	経口	50 mg/kg・日	5~6日間	15日間	●
			スルフィンゾールナトリウム	経口	200 mg/kg・日	-	15日間	●
	冷水病	抗菌剤	フルルフェニコール	経口	10 mg/kg・日	5日間	14日間	●
			スルフィンゾールナトリウム	経口	200 mg/kg・日	-	15日間	●
エドワジエラ・イクタルリ感染症	抗菌剤	フルルフェニコール	経口	10 mg/kg・日	5日間	14日間	●	
にしん目魚類 (淡水・海水・あゆを含む)	魚卵消毒	消毒剤	ブロナポール	薬浴	【連日薬浴】 :飼育水1L当たり0.1mL、1日1回30分間 連続薬浴する 【間けつ薬浴】 :飼育水1L当たり0.2mL、1日1回30分間、 隔日若しくは3日に1度薬浴する	-	-	

★印:製品により投与期間が異なるものです。製薬メーカーHPなどで御確認ください。  
●印:使用基準が設定されている魚種及び有効成分です。

### 3. こい目魚類に使用できる水産用医薬品

こい、どじょう、なまず、ふな、ほんもろこ、など

※現在の分類学ではなまず目等に分類される魚種もありますが、水産用医薬品の分類については平成3年に設定した分類方法を採用しています。



効能効果		医薬品		用法・用量			使用禁止期間	使用基準
対象魚種	対象疾病	区分	有効成分	投与方法	用量	投与期間		
こい目魚類	エロモナス病	抗菌剤	オキシリン酸	経口	10 mg/kg・日	5~7日間	28日間	●
こいのみ	カラムナリス病	抗菌剤	スルファイソゾールナトリウム	経口	200 mg/kg・日	—	10日間	●
こい、ふなのみ	イカリムシ症	駆虫剤	トリクロルホン(メトリホナート)	薬浴	飼育水1t当たり0.3g	—	5日間	●
	魚じらみ症(チョウ症)	駆虫剤	トリクロルホン(メトリホナート)	薬浴	飼育水1t当たり0.3g	—	5日間	●

### 4. うなぎ目魚類に使用できる水産用医薬品

うなぎ、あなご、など



効能効果		医薬品		用法・用量			使用禁止期間	使用基準
対象魚種	対象疾病	区分	有効成分	投与方法	用量	投与期間		
うなぎ目魚類	鰭赤病	抗菌剤	オキシリン酸 ※1	経口	20 mg/kg・日	4~6日間	25日間	●
			スルファモノメトキシ 又はそのナトリウム塩 ※2	経口	200 mg/kg・日	—	30日間	●
	赤点病	抗菌剤	オキシリン酸 ※1	経口	5 mg/kg・日	3~5日間	25日間	●
	パラコロ病	抗菌剤	オキシリン酸 ※1	経口	20 mg/kg・日	5日間	25日間	●
			フロルフェニコール	経口	10 mg/kg・日	5日間	7日間	●
			スルファモノメトキシ 及びオルメトプリム配合剤 ※3	経口	50 mg/kg・日	5~7日間	37日間	●
塩酸オキシテトラサイクリン ※2	経口	50 mg(カ価)/kg・日	—	30日間	●			
うなぎのみ	パラコロ病	抗菌剤	オキシリン酸 ※1	薬浴	水1t当たり5g・6時間	—	25日間	●
	イカリムシ症	駆虫剤	トリクロルホン(メトリホナート)	薬浴	飼育水1t当たり0.2g	—	5日間	●

※1 ウナギにあっては飼育水の交換率が1日平均 50%以上の条件下に 25日間おこななければ食用に供するために水揚げしてはならない。

※2 ウナギにあっては体重100g以下のものについては 30日間、体重100gを超えるものについては、飼育水の交換率が1日平均 40%以上の条件下に 30日間おこななければ食用に供するために水揚げしてはならない。

※3 ウナギにあっては体重100g以下のものについては 37日間、体重100gを超えるものについては、飼育水の交換率が1日平均 40%以上の条件下に 37日間おこななければ食用に供するために水揚げしてはならない。

### 5. かれい目魚類に使用できる水産用医薬品

ひらめ、ほしがれい、まこがれい、まつかわ、など



効能効果		医薬品		用法・用量			使用禁止期間	使用基準
対象魚種	対象疾病	区分	有効成分	投与方法	用量	投与期間		
かれい目魚類	連鎖球菌症	抗菌剤	塩酸オキシテトラサイクリン	経口	50 mg(カ価)/kg・日	—	40日間	●
			アルキルトリメチルアンモニウム カルシウムオキシテトラサイクリン	経口	50 mg(カ価)/kg・日	—	40日間	●

## 6. ふぐ目魚類に使用できる水産用医薬品

とらふぐ、かわはぎ、うまづらはぎ、など



効能効果		医薬品		用法・用量			使用禁止期間	使用基準
対象魚種	対象疾病	区分	有効成分	投与方法	用量	投与期間		
ふぐ目魚類	ビブリオ病	抗菌剤	塩酸オキシテトラサイクリン	経口	50 mg (カ価)/kg・日	—	40日間	●
	えらむし症 (ヘテロボツリウム・オカモトイ)	駆虫剤	過酸化水素	薬浴	(製品により異なりますので製薬メーカーHPなどでご確認ください)		—	—
			フェバンテル	経口	25 mg/kg・日	5日間	21日間	●
	はだむし症 (ネオベネデニア・ジレレ)	駆虫剤	過酸化水素	薬浴	(製品により異なりますので製薬メーカーHPなどでご確認ください)		—	—
カリグス症 (カリグス・フグ (=シュードカリグス・フグ))	駆虫剤	ピルピン酸メチル	薬浴	海水1m <sup>3</sup> 当たり300mL (マリンディップの場合、15分間)		—	1日間	●
		過酸化水素	薬浴	(製品により異なりますので製薬メーカーHPなどでご確認ください)		—	—	—

## 7. 魚類全体に使用できる医薬品

効能効果		医薬品		用法・用量			使用禁止期間	使用基準
対象魚種	対象疾病	区分	有効成分	投与方法	用量	投与期間		
魚類	肝機能減退による発育障害	肝疾患用剤	ウルソデオキシコール酸	経口	20 mg/kg・日	—	—	
	ビタミンE欠乏症	ビタミン剤	ビタミンE:トコフェロール及び酢酸エステル	経口	ビタミンEとして100 mg/kg・日	—	—	
	脂溶性ビタミン欠乏症	ビタミン剤	ビタミンA:レチノールパルミチン酸エステル ビタミンD:コレカルシフェロール ビタミンE:トコフェロール酢酸エステル	経口	0.025 mL/kg・日	—	—	
	脂溶性ビタミン及び水溶性ビタミン欠乏症	ビタミン剤	ビタミンA:レチノールパルミチン酸エステル ビタミンC:L-アスコルビン酸ナトリウム ビタミンD:コレカルシフェロール ビタミンE:トコフェロール酢酸エステル	経口	0.025 mL/kg・日	—	—	
	水溶性ビタミン欠乏症	ビタミン剤	ビタミンB2:リボフラビン ビタミンB3:ニコチン酸アミド配合 ビタミンB5:パントテン酸カルシウム ビタミンB6:塩酸ピリドキシン	経口	2 g/kg・日	—	—	
魚類及び甲殻類		麻酔剤	オイゲノール	薬浴	魚類:1/5,000~ 1/20,000希釈	—	7日間	
					甲殻類:1/2,000~ 1/4,000希釈	—	10日間	

### 注意

- ※ 用量には特に断りのない場合、1日に投与する有効成分の量で投与できる最大量を記載しています。
- ※ 投与期間が用法・用量に書かれていない場合でも、使用上の注意で最大投与期間が決められていることがありますので、使用上の注意は必ず読んでください。
- ※ 使用に際しては添付文書等に記載されている用法・用量に従って適正に使用してください。

表3 有効成分別の一覧

区分	有効成分※1 (投与方法・略記号)	対象魚種										
		すずき目	にしん目 (海水)	にしん目 (淡水) (あゆを除く)	あゆ	こい目	うなぎ目	かれい目	ふぐ目			
抗 菌 剤	アンピシリン (ABPC)	類結節症	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	塩酸オキシテトラサイクリン (OTC)	ビブリオ病	ビブリオ病	せつそう病 ビブリオ病 連鎖球菌症	×	×	×	×	×	×	×	×
	アルキルトリメチルアンモニウムカルシウムオキシテトラサイクリン (QTC)※2	連鎖球菌症 ビブリオ病	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	塩酸ドキシサイクリン (DOX)	連鎖球菌症	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	エリスロマイシン (EM)	連鎖球菌症	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	塩酸リンコマイシン (LCM)	連鎖球菌症	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	ホスホマイシンカルシウム (FOM)	類結節症 エドワジエラ症	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	オキソリン酸 (OA)※2	類結節症	せつそう病 ビブリオ病	せつそう病 ビブリオ病	×	×	×	×	×	×	×	×
	オキソリン酸 (OA) (薬浴)※2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	スルファアモノメトキシシン又はスルファアモメトキシナトリウム (SMMX) (経口又は薬浴)※2	ビブリオ病 ノカルジア症	×	×	せつそう病 ビブリオ病	×	×	×	×	×	×	×
サルファ剤	スルファアモノメトキシシン及び オルメトプリムの配合剤	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	スルファイゾールナトリウム (SIZ)	類結節症 ビブリオ病 ノカルジア症 (ぶりのみ)	ビブリオ病 冷水病 (にじますのみ)	ビブリオ病 冷水病 (にじますのみ)	×	×	×	×	×	×	×	×
	チアンフエニコール (TP)	類結節症 ビブリオ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
フロルフェニコール (FF)※2	類結節症 連鎖球菌症	×	×	せつそう病 ビブリオ病 冷水病	×	×	×	×	×	×	×	×

※1 薬浴と記載がないもの以外はすべて経口投与で使用するものです。  
 ※2 同じ有効成分を含む医薬品でも製品によって効能・効果が異なる場合があります。必ず表4や製薬メーカーHP等でご確認ください。

区分	有効成分※1	対象魚種									
		すずぎ目	にしん目 (海水)	にしん目 (淡水) (あゆを除く)	あゆ	こい目	うなぎ目	かれい目	ふぐ目		
駆虫剤	プラジクアンテル※2	はだむし症 @ベネデニア・セリオレ 住血吸虫症 @カルジコラ・オピストルキス	×	×	×	×	×	×	×	×	
	過酸化水素(薬浴)※2	はだむし症 @ベネデニア・セリオレ @ネオベナデニア・ジレレ えらむし症 @ビバギナ・タイ	×	×	×	×	×	×	×	はだむし症 @ネオベネデニア・ジレレ えらむし症(未成熟虫) @ヘテロボツリウム・オカモトイ カリブズ症 @カリグス・フグ (=シユードカリグス・フグ)	
	フェバンテル	えらむし症(ぶり属のみ) @ヘテラキシネ・ヘテロセルカ @セウクサブタ・ジャボニカ	×	×	×	×	×	×	×	えらむし症 @ヘテロボツリウム・オカモトイ	
	ピルピン酸メチル(薬浴)	×	×	×	×	×	×	×	カリブズ症 @カリグス・フグ (=シユードカリグス・フグ)		
	トリクロホン(薬浴)	×	×	×	×	イカリムシ症 魚じらみ(チョウ)症 (こい、ぶなのみ)	×	×	×	イカリムシ症 (うなぎのみ)	
	塩化リンゲナム	白点病(まだいのみ)	×	×	×	×	×	×	×	×	
	アルベンダゾール	べこ病 @ミクロスボリジウム・セリオレ	×	×	×	×	×	×	×	×	
	ポピドンヨード(薬浴)	×	×	×	×	魚卵消毒 (さけ科のみ)	×	×	×	×	
	プロノポール(薬浴)	×	×	×	×	魚卵消毒	×	×	×	×	
	オイゲノール(薬浴)										魚類及び甲殻類の麻酔
肝用剤	ウルソデオキシコール酸										肝機能減退による発育障害
	グルタチオン										×
	ビタミンE										×
	ビタミンA、D及びE										×
ビタミン剤	ビタミンA、C、D及びE										×
	ビタミンB群4種										×
											×
											×

※1 薬浴と記載がないものは、経口投与で使用するものです。

※2 同じ有効成分を含む医薬品でも製品によって効能・効果が異なる場合があるため、必ず表4や製薬メーカーHP等でご確認ください。

注1 駆虫剤の対象疾病及び病原体の表記は現時点での分類に合わせて修正しており承認された効能効果とは表記と異なる場合があります。

注2 はだむし症は海水魚類の体表に寄生するカブサラ科の単生類による疾病、えらむし症はえらに寄生する多後吸盤目の単生類による疾病と定義しています。

表4 対象魚種を間違いやいやすい水産用抗菌剤一覧



同じ有効成分を含む医薬品でも、製品によって効能・効果が異なる場合があるため、必ず各製品の効能・効果を確認して使用してください。

有効成分	投与方法	剤型等	製剤名	製造販売業者※	対象魚種 (空欄の対象魚種には使用不可)								
					すずぎ目	にしん目 (海水)	にしん目 (淡水) (あゆを除く)	あゆ	こい目	うなぎ目	かれい目		
アルキルトリメチルアンモニウムカルシウムオキシテトラサイクリン (QTC)	経口	散剤	水産用QTC10%散「KS」	共立	○						○		
			水産用QTC20%散「KS」	共立	○							○	
			水産用OTC-Q散「TG」10%	トーヨー	○								○
			水産用OTC-Q散「TG」20%	トーヨー	○								○
			水産用QTC20%「バイオ」	バイオ	○								○
			水産用OTC-Q200「リケン」	リケン	○								
オキシリン酸 (OA)	経口	散剤	水産用オキシリン酸	コーキン	○	○	○	○	○	○	○		
			水産用オキシリン酸10%散「KS」	共立	○	○	○	○	○	○	○		
			水産用オキシリン酸20%散「KS」	共立	○	○	○	○	○	○	○		
		懸濁油剤	水産用パラザン10%	物産	○	○	○	○	○	○	○	○	
			水産用パラザン油剤	物産								○	
			水産用オキシリン酸懸濁液200「リケン」	リケン	○								
スルファモノメトキシニン又はスルファモノメトキシニナトリウム (SMMX)	経口	散剤	水産用オキシリン酸懸濁液50「リケン」	リケン	○								
			水産用パラザンD	物産							○	うなぎのみ	
			水産用ダイメトシンド	明治	○							○	
	薬浴	散剤	水産用ダイメトシンド	明治	○							○	
			水産用スルファモノメトキシニソード純末「KS」	共立	○							○	
			水産用ダイメトシンド	明治	○							○	
スルファモノメトキシニン及びオルメトプリムの配合剤	経口	散剤	水産用スルファモノメトキシニソード純末「KS」	共立									
			水産用エクトジシン	明治							○		
			イスランソード	MSD	ぶりのみ						○	こいのみ	
	薬浴	液剤	アクアフェンL	MSD	○							○	
			水産用フロルフェニコール2%液「KS」	共立	○							○	
			アクアフェン	MSD	○							○	
フロルフェニコール (FF)	経口	散剤	水産用フロルフェニコール散「コーキン」	コーキン	○							○	
			水産用バシックスFf25「リケン」	リケン	○							○	
			水産用バシックスFf40	リケン	○							○	
			水産用フロルフェニコール25「リケン」	リケン	○							○	
			水産用フロルフェニコール40「リケン」	リケン	○							○	
			水産用フロルフェニコール40「リケン」	リケン	○							○	

※製造販売業者略称 MSD:MSDアニマルヘルス(株) 共立:共立製薬(株) コーキン:コーキン化学(株) トーヨー:(株)トーヨー技術研究所 バイオ:バイオ科学(株) 物産:物産アニマルヘルス(株) 明治:明治アニマルヘルス(株) リケン:リケンベッツファーマ(株)

## VIII その他

# 薬が効かない？

と思ったら

### ① 薬が「効いていない」のか

- ・「効かない」というのは、全く効かない(=無効)ことを言います。
- ・「効果が短い」「効き目が弱い」ということではないでしょうか？なるべく具体的に表現してみましょう。

### ② 記録を付ける

- ・「効果が短い」と言っても、どの程度で効果がなくなるのか曖昧です。
- ・薬の使用状況や死亡数や症状などの「異常」だと思ふ特徴を使用記録表や日誌等に記録し、客観的なデータにしてみましょう。

### ③ 比べる

- ・②で整理したデータを基に、過去や他地域と比べてみましょう。
- ・ここ数年と比べて、今年だけの異常でしょうか。
- ・県内の業者、別海域や他県の業者も、同様に異常が見られるでしょうか。

## 考えてみる ~原因は薬なのか、それとも~

- ・水産用医薬品は、製造方法や有効期間についても承認されているため流通している薬そのものが、急に効かなくなることは、通常ありません。
- ・薬が効かないと感じる場合、③の比較結果から、原因を指導機関とともに考察してみましょう。

(医薬品の異常以外に考えられる原因)

薬剤耐性菌の発生、別の疾病との混合感染、飼育環境の異常、新種の病原菌の出現、医薬品の使用方法のミス など



# よくある質問Q&A

## Q. 薬の用量って実際に魚が口にする量？

- ・水産用医薬品の「用量」とは、実際に魚が口にする量（海中等に拡散した分を引いた量）ではなく、エサに混ぜる段階での薬の量を指します。
- ・薬を混ぜたエサを撒くと海中に拡散することがあるため、本来の「用量」よりも多めに投与してしまいがちですが、その必要はなく、むしろ残留リスクが増加するので止めましょう。

## Q. 出荷する魚に医薬品成分は残っていてもよい？

- ・投与した医薬品の成分が出荷魚に残留していたとしても人の健康に悪影響が出ない残留濃度レベル等を「残留基準」「残留基準値」と言います。
- ・例えば残留基準値が0.05mg/kgだった場合、検査結果が0mg/kgから0.05mg/kgの範囲に収まればよいことを意味するため、必ずしも残留を「ゼロ」にする必要があるわけではありません。いずれにせよ、使用基準を守ることが残留基準を守ることに繋がります。使用基準を守りましょう。

## Q. 獣医師の診療はどうやって申し込むの？

- ・農林水産省は魚病対策を迅速化するために魚病に詳しい獣医師を増やす施策を行っており、その獣医師をリスト化した「獣医師リスト」を都道府県に配布しています。
- ・水産試験場などにご連絡いただければ、その地域に診療可能な獣医師を紹介してもらうことができます。是非、ご活用ください。

## Q. 獣医師は何ができるの？ メリットは？

- ・感染症の検査・診断や治療の指示、衛生的な飼育方法のアドバイス、水産用医薬品の処方などを行うことができます。医薬品の特殊な使用（12、13ページ）や食品安全について詳しい獣医師もいますので、相談を行なうことも可能です。
- ・また、多くの獣医師は広い地域で診療可能であり、ほとんど異動がなく長期的な関係を構築できることから、養殖業者が日常的に魚病全般について相談できる「かかりつけ獣医師」として活用できるのもメリットです。
- ・獣医師によって経験や知識が異なるほか、得意分野もそれぞれであるため、経験年数などを獣医師リストで十分にご確認ください。



# 魚病等の情報を公開しています

農林水産省は魚病や水産用医薬品に関する情報をホームページで公開しています。



新しい薬が承認されているか調べたい!



農水 水産用医薬品について



魚病がどれだけ発生しているか調べたい!



農水 魚病被害の発生状況



魚病に関して国がやっていることを教えて!



農水 水産動物の病気を防ぐために



薬剤耐性菌について詳しく知りたい!



動物医薬品検査所 薬剤耐性菌への対応